



創世記、申命記、サムエル記

最後のことば (ヤコブ、モーセ、ダビデ)

2018.12.31

ダビデの最後のことば
2サムエル 23:

王

36-4 ← 善光 → ことば
2-3a
5 ← 永遠の契約 →
6-7 ← さばき →
家

「しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱めを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄光を受ける。
闇の中を歩んでいた民は大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。」
イザヤ書 9章1-2節

「起きよ。輝け。まことに、あなたの光が来る。主の栄光があなたの上に輝く。見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に見える。国々はあなたの光のうちを歩み、王たちはあなたの輝きに照らされて歩む。」
イザヤ書 60章1-3節

「しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、善の太陽が昇る。その翼に塵やしがあふ。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。」
マラキ書 4章2節

「見よ、わたしは、主の大きいなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたに遣わす。」
マラキ書 4章5節

「幼子よ、あなたこそいと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。」
ルカ福音書 1章76-79節

「また私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜が明けて、明けの明星があなたがたの心に昇るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」
ペテロの手紙第二 1章19節

23:8 - 勇士リスト (カエサル等)
24: - 神殿の場所
アウタマシ場

「彼は言った。「主はシナイから来て、セイルから彼らを照らし、パランの山から光を放ち、幾万もの聖なる者のところから近づいて来られる。その右手に彼らの御使いたちを伴って。」
申命記 33章2節

「さばき」

「義の太陽が昇る。マラキ 4:2
老ヤコブ 6:1
ゼカリア 9:8
ペテロ 1:19
イザヤ 9:1-... (イザヤ 78-79)

「彼は言った。「主はシナイから来て、セイルから彼らを照らし、パランの山から光を放ち、幾万もの聖なる者のところから近づいて来られる。その右手に彼らの御使いたちを伴って。」
申命記 33章2節

「さばき」

「義の太陽が昇る。マラキ 4:2
老ヤコブ 6:1
ゼカリア 9:8
ペテロ 1:19
イザヤ 9:1-... (イザヤ 78-79)

第2サムエル記23章、ダビデの最後のことばです。22章には、詩篇18篇に引用されている「主は岩である」という最後の教えのことばがありますね。その次、最後のことばと言ってこの祝福のことばを見ました。そんなに長いものではないのですけれど、2節から4節までが「王が与えられること」、5節から7節までが「家が確かにされること」というダビデの契約の約束の概略に従って、この祝福のことばが言われているものだと思います。

1)御霊のことば、岩が教えるというところから始まって、2)義の太陽が昇る、3)主はとこしえの契約を覚えて共にいてくださる、ダビデの家はとこしえに続く、そして、4)敵は裁かれて焼かれるというこの4つの段落ですね。王となる、家が与えられるということ、主のことば、永遠の契約、義の光とその光によって明らかにされて、裁きが…報いがくるというような概略になっています。

特に光が、太陽が昇るというところに注目したいと思います。この昇るという言い方が、イザヤ書9章で「メサイアが生まれる」というところで異邦人の民ガリラヤは、栄誉を受けるところに「光が昇る」という言い方がありますね。60章からの「起きよ。輝け。まことにあなたの光が来る、主の栄光があなたの上に輝く。」ここも、昇る、昇るということです。マラキ書で最後の最後、4章のところ、「最後の日に、終わりの日に義の太陽が昇る。恐るべき日が来る前に預言者エリヤを遣わします。」というところ。その預言者エリヤを遣わすという約束の通りに、バプテスマのヨハネが

えるようにさせたということになりますから、すべての国々の王の王である主にハレルヤ、主に感謝せよというのが、地を従えるということだということが、ヤコブの最後のことばからも分かるものだと思います。

ヤコブの最後のことば、そして、アブラハムの約束の成就としてのモーセの最後のことば。さらに、それを進んでメサイアが来るというダビデの最後のことば。すべてに義の太陽が昇ると。義の太陽が昇っている感じなのでしょうね。ユダの子孫が地を従えると言ったときに、義の太陽が昇っているということになるのだらうと思います。

最後のことば。それぞれの書物の最後に、父たちからの相続のことばが与えられている。遺言のようなものです。遺言と遺産、相続の一番大切なものということで、ことばが記録されているということだと思いますので、ダビデの最後のことば、モーセ、ヤコブの最後のことばを見て、私たちに何が与えられているのかというのが大切なことだと思います。イエス様の最後のことばは、さて何でしょう。たぶん、ヨハネ福音書の17章の祈りというのは、私たちに与えられる主の祝福の最後のことばということだと思いますので、こういう箇所と一緒に見てみるのが良いのではないかと思います。